

# あの空<sup>そら</sup>見<sup>み</sup>れば 若人<sup>わこうど</sup>の歌<sup>うた</sup>

## ■ 楽曲データ

歌詞：毛利忠義 作詞

楽曲：依田光正 作曲

発表：真宗教団連合 1970年

初演：「真宗讃歌中央発表会」 1970年8月3日 本願寺会館

初出：『親鸞聖人ご誕生800年・立教開宗750年記念讃歌 われらいま あの空見れば』 真宗教団連合 1970年

管理番号：M1948

## ■ 創作の経緯

親鸞聖人ご誕生800年・立教開宗750年を記念し、真宗教団連合が「若人の歌」として制定。歌詞は公募による。「真宗の歌」として制定の《われらいま》とともに発表された。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『親鸞聖人ご誕生800年・立教開宗750年記念讃歌 われらいま あの空見れば』 真宗教団連合 1970年

比較資料：－

校訂の詳細：特記事項なし

## ■ 解説

### ◆ 曲について

この曲には、「若人の歌」という副題がついており、その願いの通り、へ長調の明るい曲調で作曲されています。

歌詞は、平明な日常語で親鸞聖人を讃えます。前半では「空」「花」「山」といった、私たちが日常眼にしているもののなかに親鸞聖人の存在を感じ、後半の「ああ われら」からは、日々の生活や自身の内面に現れた信仰の喜びや同朋と共に歩む楽しさを歌っています。曲は、上行する八分音符から始まって明るい風景が一気に広がり、後半は詞の内容を力強く表現しています。

真実に出遇ったことの喜びは、若人だけに限られたものではありません。むしろ、真実に出遇うことによって、若々しい喜びや力強い歩みが恵まれるのではないのでしょうか。真宗門徒みんなの歌にしたいものです。真宗讃歌として広くさまざまな場で歌ってください。

## ◆作詞者・作曲者について

作詞の毛利忠義は、日本各地のご当地ソングや市民歌の作詞を手掛けたアマチュアの作詞家だったようです。

作曲の依田光正（1927～1999）は、東京音楽学校（現・東京芸術大学音楽学部）で下総皖一（仏教讃歌《いのち》の作曲者）に師事し、1949（昭和24）年に研究科を修了しました。放送局専属の作曲家として活動した後フリーの作曲家となり、1983（昭和58）年からは名古屋音楽大学の教授を勤めました。

## ◆歌い方について

①小さな世界に閉じこもるのではなく、大きく開けた風景を想像して、おおらかに歌ってください。

②歌い出し（5小節目）の8分音符3つを生き生きと歌い出しましょう。

③6小節1拍目「ば」が、大きくなりすぎたり平べったくなったりしがちです。響きを落とさずに、音程を保ちましょう。

④9小節1・2拍目の8分音符は低い音ですが、はっきりと歌いましょう。3拍目から次の小節にかけて、1オクターヴ上がります。この音程をきっちり取るように練習しましょう。

⑤15小節の「シ♭」→「レ」の音程も注意して。

⑥16小節4拍目からは、のどを十分に開いてのびのびと歌いましょう。「ああわれら」は、2回目をより大きく、力強く。

⑦「われら」の下降音階（17～20小節目）では、8分音符を急いでしまいがちです。「わ」を少しテヌートして（音を保って）歌いましょう。

⑧25小節目の上行形も躍動感をもって歌ってください。

⑨27小節以降は一つ一つの音をしっかりと発音し、力強く歌い切りましょう。

⑩29・30小節目、33・34小節目の長い音符は、音が下がらないように注意しましょう。そのためには、26小節目4拍目の4分休符で、息を十分に吸うことが大切です。

## ◆楽譜・音源

斉唱版のほかに、二部合唱版があります。二部合唱版の楽譜は『讃歌集 二部合唱』第5巻に掲載されており、音源はCD『讃歌集二部合唱 あの空見れば』に収録されています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 45（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第172号収録）を加筆・修正のうえ、転載。